宮古島市neo歴史文化ロード 綾道 ～城辺東・北コース～

新 宮古島市neo歴史文化ロード

綾道（あやんつ）

城辺（ぐすくべ）東（ひがし）・北（きた）コース

宮古島市教育委員会

綾道

あやんつ

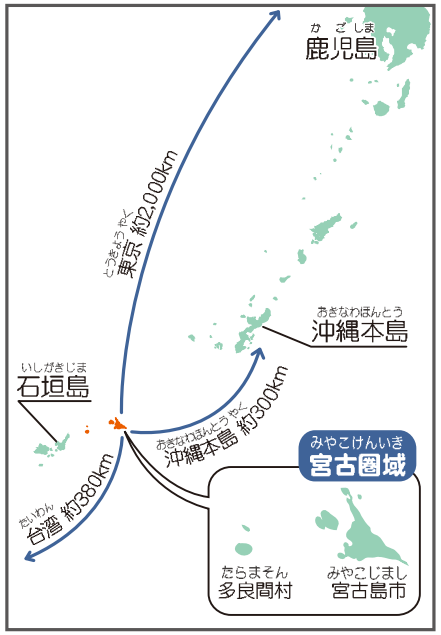
「趣(おもむき)のある道(みち)」のことを、宮古島(みやこじま)のことばで「あやんつ」といいます

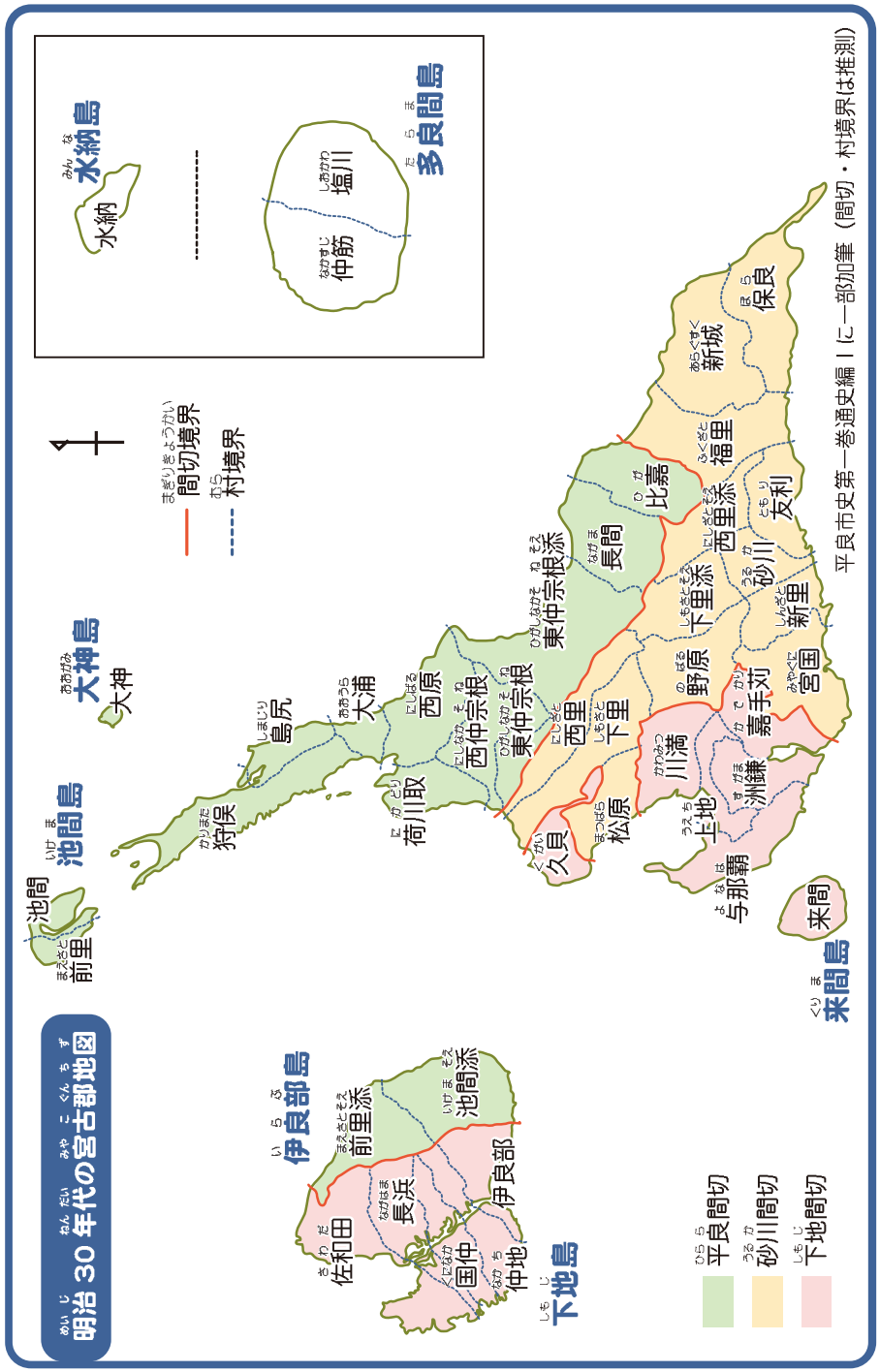
宮古島市の位置と面積

宮古島市は大小6つの島（宮古島、池間島、大神島、来間島、伊良部島、下地島）で構成されています。

総面積は204キロ平方メートル、人口約5万5,000人で、人口の大部分は平良地区に集中しています。

島全体がほぼ平坦で、山岳部や大きな河川もなく、生活用水などのほとんどを地下水に頼っています。





宮古島市neo歴史文化ロード　**綾道（城辺東・北コース）**

※御嶽は祭祀などを行う大切な場所です。神聖な場所なので入らないようにしましょう。

宮古島市の位置と面積……02
明治30年代の宮古郡図……03
散策マップ（城辺東・北コース）　06
城辺地区の概要……08
　ぐすくべ字まめちしき……09
散策マップ（保良・新城コース）　10
東平安名崎　国指定名勝　12
東平安名岬の隆起珊瑚礁海岸風衝植物群落　県指定天然記念物(植物)　12
　パナリの伝説……13
マムヤの屋敷跡・機織り場・墓　市指定史跡　14
　マムヤの物語……15
宮古島保良の石灰華段丘　国指定天然記念物(地質)　16
　石灰華段のできるまで……17
七又のミーマガー　市指定有形民俗　18
　鬼の杵、神の杵とウンヌヤー……19
ぐすくべのアギイス(力石)七又・新城・西中　市指定有形民俗　20
　おっぱい山……21
仲原化石　市指定天然記念物(地質)　22
　クジラまめちしき……23
散策マップ（西里添・下里添・福里コース）　24
　宮古の地下水と地下ダム……26
旧西中共同製糖場煙突　国登録有形文化財(建造物)　28
旧西中共同製糖場跡　市指定史跡　28
　黒糖ができるまで……30
上区の獅子舞い　市指定無形民俗　32
　唐金兄……33

もくじ

　城辺と人頭税……34
前井と御神木その周辺の植物群落　市指定天然記念物(植物)　36
　城辺を一望できるいこいの森展望台……37
散策マップ（比嘉・長間コース）　38
西銘御嶽　市指定史跡　40
飛鳥御嶽の植物群落　市指定天然記念物(植物)　41
　飛鳥爺の物語……42
　飛鳥爺の関係図……43
山川ウプカー　市指定有形民俗　44
　宮古有数の水田 ナガマダー……45
高腰城跡　県指定史跡　46
　高腰の按司……47
比嘉の獅子舞い　市指定無形民俗　48
野加那泉　市指定有形民俗　49
瑞福隧道　市指定建造物　50
　排水路の改修と新トンネル……51
野城泉　市指定史跡　52
　ミヤコチスジノリ……53
浦底遺跡　埋蔵文化財　54
アラフ遺跡　市指定史跡　55
　浦底遺跡やアラフ遺跡から出土した遺物……56
保良元島遺跡　市指定史跡　58
　保良元島の竜……59
　周辺の遺跡群……60
国指定天然記念物(動物)　62
文化財の体系図……64
それぞれの文化財の一例……65

城辺 東・北コース

所用時間 :約３時間
(約40km)

散策コース

ショートコース
新城・保良.....P10
西里添・下里添・福里..P25
長間・比嘉.....P38

西銘御嶽 P40
山川ウプカー P44
長間底海岸
クマザ海岸
野城泉 P52
高腰城跡 P46
野加那泉 P49
浦底遺跡 P54
浦底漁港
飛鳥御嶽の植物群落 P41
比嘉の獅子舞い P48
前井と御神木その周辺の植物群落 P36
瑞福隧道 P50
上区の獅子舞い P32
城辺庁舎
いこいの森展望台 P37
福里
顕彰碑 P34
旧西中共同製糖場煙突
旧西中共同製糖場跡 P28
福里村総代 西里蒲生誕地の碑 P34
ぐすくべのアギイス(西中) P20
ビマル御嶽
砂川
新里
ムイガー
宮古島市地下ダム資料館 P26
仲原化石 P22
地下ダム P26

新城村総代 上原戸那生誕地の碑 P34
アラフ遺跡 p55
新城海岸
おっぱい山 P21
ぐすくべのアギイス(新城) P20
マムヤの屋敷跡 P14
吉野海岸
保良元島遺跡 P58
東平安名岬の隆起珊瑚礁海岸風衝植物群落 P12
鬼の杵 神の杵 P19
ウンヌヤー P19
保良村総代 平良真牛生誕地の碑 P34
ボラガー
START
宮古島保良の石灰華段丘 P16
東平安名崎 P12
ぐすくべのアギイス(七又) P20
七又のミーマガー P18
マムヤの機織り場 P14
マムヤの墓 P14

城辺

　城辺の名称は、仲宗根豊見親が統治していた頃、友利、新里、砂川、宮国の４つの村や周辺地域を「城の方」と呼んだことから由来するといわれています。1908(明治41)年の特別町村制施行によって、９字の城辺村が誕生、1947(昭和22)年に城辺町となり、2005(平成17)年に市町村合併により宮古島市の一部となります。城辺は、地域を４等分するように３つの丘陵が東西に走り、その間はほぼ平坦な地形のため、農地として活用され、「農業のまち」として発展してきました。

ぐすくべ字まめちしき

平良地区
城辺地区
上野地区
下地地区

地名から歴史がわかる！

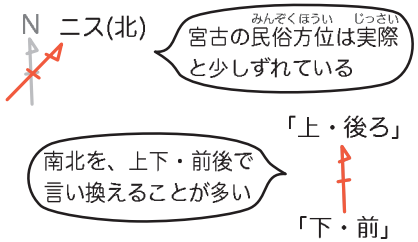
西里添と下里添は、平良の西里と下里から分村してできた地域です。

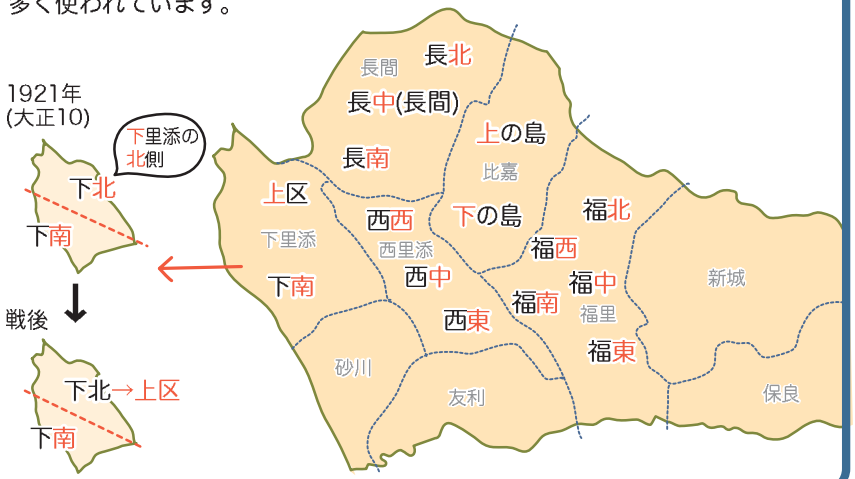
東西南北でざっくり区分け

住所にある小字ではなく、集落ごとのざっくりとした区分け(行政区)で、地域の行事ごとなどは行われています。

城辺は東西南北や上下が地名に多く使われています。

これがわかると地名の位置関係も納得！





保良・新城コース

散策コース

所用時間：1時間30分
(約18km)

アラフ遺跡 P55

新城海岸

東側は遠浅のリーフが続く

吉野海岸

←比嘉

新城村総代 上原戸那
生誕地の碑 P34

おっぱい山 P21

吉野公民館

ぐすくべの
アギイス(新城) P20
新城公民館

マムヤの屋敷跡 P14

地下ダム公園

皆福地下ダム P26

保良村総代 平良真牛
生誕地の碑 P34

ウンヌヤー P19

皆福公民館

鬼の杵
神の杵 P19

ぐすくべの
アギイス(七又) P20
七又公民館

メガリーラー

ボラガー
水量が豊富

クバクンドゥ
(別名：ちんすこうホール)
洞窟内に
石灰華段が
できている

七又の
ミーマガー P18

南側は断崖絶壁で
海がすぐに深くなる
= 船がつけやすい

83
199
390
235

渡り鳥の楽園 パナリ

4種のアジサシ類の
繁殖地。幼鳥
ほどの大きさ。

5~9月は繁殖期のため
立入禁止

マミジロアジサシ
エリグロアジサシ
クロアジサシ
ベニアジサシ

保良元島遺跡 P58

東平安名岬の隆起珊瑚礁
海岸風衝植物群落 P12

パナリ

START

東平安名崎 P12

マムヤの墓 P14

マムヤの機織り場 P14

ビーチロック

マイバー

このあたりは
昔水田だった

宮古島保良の
石灰華段丘 P16

東シナ海

太平洋

ビーチロック
とは？

天然の防波堤

淡水性の
炭酸カルシウム
とまざることできる??
(結晶)

海や浜に堆積
した炭酸カルシウム
(鬼の杵)が
自然のセメント作用で
棒状に固まった鬼石

国指定 名勝　2007年(平成19)年２月6日指定

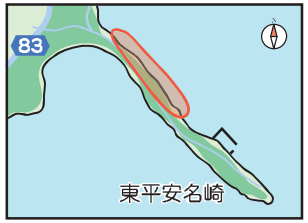
追加指定 パナリ岩礁を含む周辺海域　2011(平成23)年 ２月７日
灯台敷地　2014(平成26)年10月６日

東平安名崎

県指定 天然記念物(植物)　1980(昭和55)年4月30日指定

東平安名岬の隆起珊瑚礁海岸風衝植物群落

東平安名崎は、国の名勝に指定され、日本の都市公園100選にも選ばれた宮古島を代表する景勝地です。1998年には平安名埼灯台が日本の灯台50選に選ばれました。この一帯は常に強風のため高木は育たず、亜熱帯地方の風衝地特有の植物群落が発達しています。ミズガンピ、コウライシバ、ハマボッス、イソマツなどの群落が見られ、特にテンノウメの群落は国内で例をみない程広く発達しています。



パナリの伝説

むかし、パナリには女だけが住んでいる村がありました。

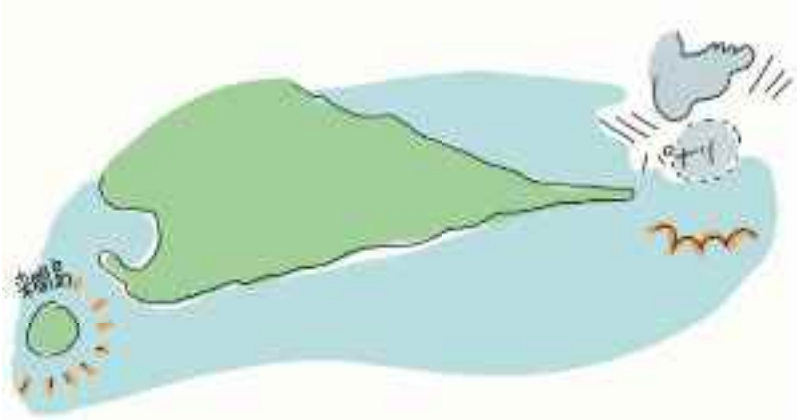
ある時、ティダ(神様)が天から降りて来て、ひとりの女と恋仲になり、女の子と男の子が生まれます。ティダは「男の子は私が天に連れて帰る。しばらくしたら連れに来る」といい、天に帰っていきました。

それを聞いた母は、我が子を連れ去られたら困ると思い、ティダを毒殺することを思いつき、子どもたちを子守に預けてウニャ(ふぐ)を捕りに海に行きました。母を待つ間、泣いている子どもたちに「泣くな、泣くな、母は今ウニャを捕りに海に行っている。ウニャをティダ(父)に食べさせるために行っている」と、子守が唄っていると、それを聞いたティダはとても驚きます。「妻がそんなことをするはずがない、もう一度唄ってみなさい」と命ずると、やっぱり同じ歌を唄いました。

それを聞いたティダは激怒し、大声をあげながら、アドゥゴル(かかと)で大地を踏みつけました。その途端、大地が激しく揺れ、パナリ村は沈没してしまいました。

するとその瞬間、宮古島の反対側に、海の底から島が浮き上がってきました。ちょうど、大きさも形も、島との距離も同じでした。これがいまの来間島だそうです。

昭和初期よりの保良風俗史(1992)より



市指定 史跡　1991(平成３)年4月9日指定

マムヤの屋敷跡・機織り場・墓

屋敷跡

機織り場

墓

保良地域では、昔から語り継がれている絶世の美女マムヤの物語や「マムヤのあやぐ」という民謡が残されています。

そのマムヤが住んでいた屋敷跡が、ゴルフ場に隣接する畑内にあり、産湯に使ったというマムヤーガーという井戸もあります。機織り場は、保良漁港の北側岸壁にあり、畳２枚程の空洞になっています。墓地は、灯台に向かう途中にある、岩の空洞に作られています。

マムヤの物語

昔、平安名というところにニフニリ(香草)の香りがするマムヤという絶世の美女がいました。

その評判を聞きつけた野城の按司は、マムヤに一目会いたいと、平安名近くの海岸を毎晩のように捜し歩きました。

ある晩、老若男女が踊るクイチャーの輪の中に、一際目立つマムヤを見つけます。按司はここぞとばかりにマムヤを誘い、妻と子がいることを隠してマムヤと結婚の約束をしてしまいました。

しかし、いつまでも妻と子がいることを隠しとおすことはできません。按司は「いつか妻とは離縁するから」とマムヤを説得し、野城に連れ帰ります。

ところが、妻とマムヤの板ばさみにあい、悩むうちに、按司は子どもの将来を考え、とうとうマムヤに「今、お前と一緒にいるのは楽しい。だが、子どもが安心するのは、子どものうんちやおしっこの匂いがついた妻だ」と話しました。信じて待っていたマムヤは、絶望のあまり生きる意味を失い、村に帰ることもできず、海辺をさまよい歩きました。そのうちマムヤは織り残した機織りが気にかかり、こっそり持ち出して、平安名崎の洞窟に隠れ住みました。

一方、マムヤの着物や機織り機がないことに気づいた両親は、娘を捜しまわります。平安名崎まで来ると「カッタン、カッタン」という機織りの音が聞こえてきました。母はマムヤの名を呼びながらその音のする方へ向かいましたが、いつまでたってもマムヤを見つけることはできませんでした。

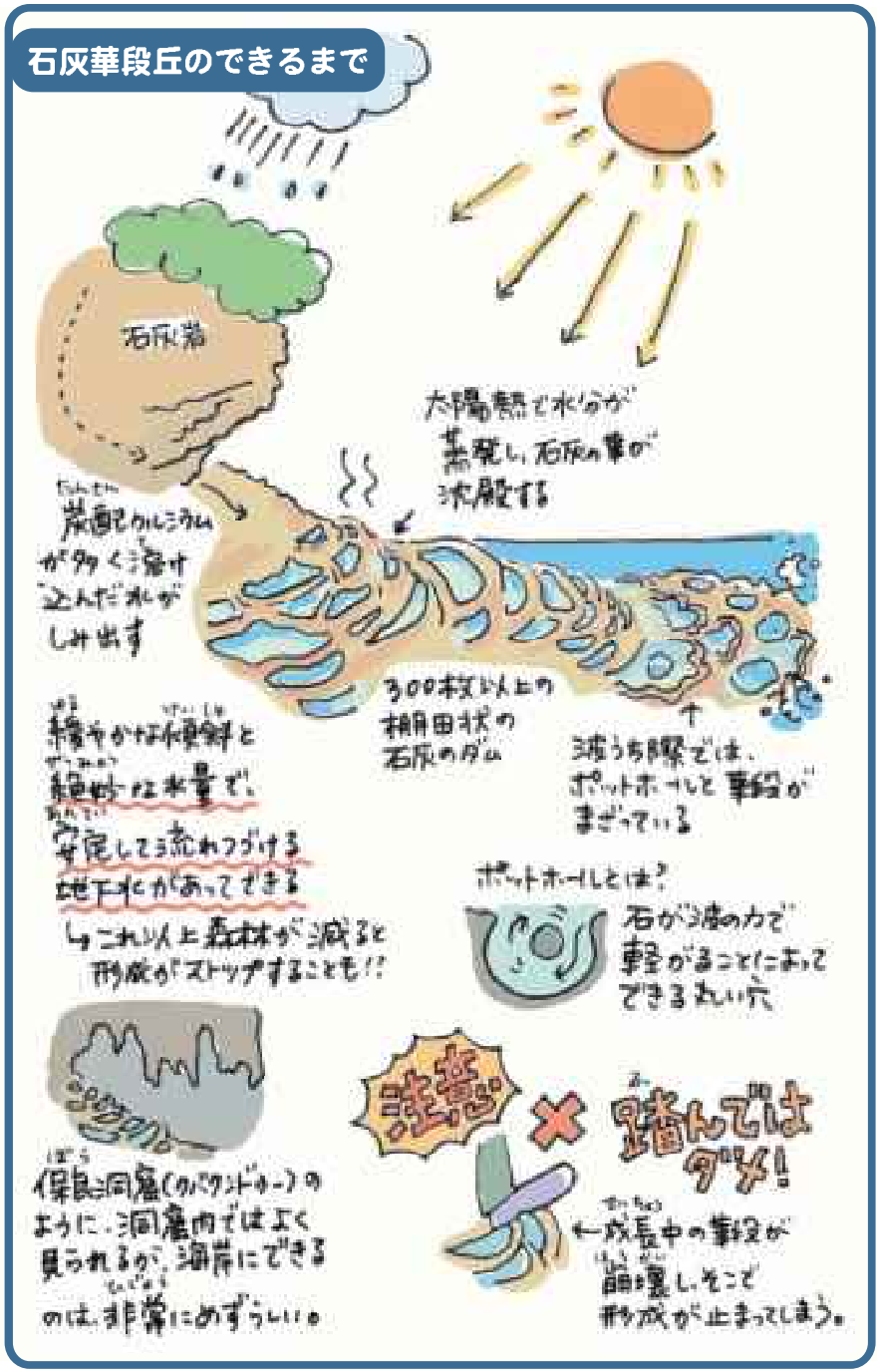
母は泣きながら「素直で優しいマムヤはどこへ行ってしまったのでしょうか？神様お願いします。この村にマムヤのような美人は二度と生まれないようにして下さい」と祈ったという話しです。

国指定 天然記念物（地質）　2016(平成28)年10月3日指定

宮古島保良の石灰華段丘

石灰華段丘は別名太陽泉と呼ばれ、保良宮土の崖下に発達しています。炭酸カルシウムを多く含んだ地下水が地表に流れ出して水分が蒸発することで、石灰の成分(石灰華)が分離し、沈殿して小さな棚田状の池を作っていきます。

太陽泉には300個以上の小さな池があり、鍾乳洞以外の野外で石灰華段丘が形成されることは珍しく、学術上貴重な国指定文化財です。



市指定 有形民俗　　2002年(平成14)年５月14日指定

七又のミーマガー

ミーマガーは、七又集落東南の嶺間の崖下にある湧き水です。このあたりは湧き水が少なく、ミーマガーは集落唯一の水源でした。崖を岩伝いに降りねばならず、水運びは重労働でした。戦後、集落内に井戸を掘ったものの水量が少なく、昭和30年頃まではミーマガーも使用しました。節まつりの時には「ンマリガー」の水として使用され、この水を浴びると若返るといわれています。

鬼の杵、神の杵とウンヌヤー

さとうきび畑の真ん中に、２本の石が立ち、神様と鬼が対決した場所といわれています。また道をはさんだ反対側に、ウンヌヤーと呼ばれる洞穴があります。戦時中は避難壕として利用されていましたが、いまは埋められ、中に入ることはできません。

◆　◆　◆　◆　◆

むかし、七又に住む娘が、織り上げた反物を納めに平良へと向かいましたが、思いのほか時間がかかって夜になってしまいました。そこで、一晩泊めてもらおうと明かりのついた家に入ると、ドゥルドゥルと鍋で何かを煮ています。ふと覗き込むと、なんとそれは人間でした。「アガイタンディ！ここは鬼の家だ！」と逃げようとした矢先に、戻ってきた鬼につかまってしまいました。

このままでは殺されると思った娘は、「便所に行きたい」と申し出ます。鬼は逃げないように腰に紐を結びましたが、娘は藪の中でこっそりとひもをはずし、夢中で走って御嶽に逃げ込みました。

しばらくして逃げられたことに気がついた鬼が御嶽まで追いかけてきて、神様に女を返せと騒ぎたてます。そこで神様は「では杵を投げて勝った方が首をもらうことにしよう」と鬼に勝負を申し出て、お互いに杵を投げ合いました。

結果は、鬼の杵は地面に浅くつきささり、神様の杵は地面に深くつきささりました。神様の勝ちです。

そこで神様は約束どおり鬼の首をとり、クバの葉で包み、「クバの葉が枯れたら降りて来い」といって天にあげました。ところが、クバの葉は年中青々としているので、今でも鬼は降りるに降りられずにいるということです。

市指定 有形民俗　　2002年(平成14)年5月14日指定

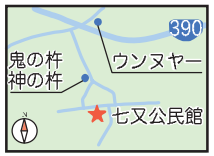
ぐすくべのアギイス(力石)七又・新城・西中

七又

新城

西中

戦前は各集落で青年による力試しが盛んに行われていました。「アギイス(力石)」は、今でいう重量上げに相当します。各集落の公民館などに、大小２個のアギイスが備えられ、肩まで持ち上げる方法と、両手で頭上まで持ち上げる方法がありました。力試しが行われなくなった戦後、多くの石が行方知れずになりました。



おっぱい山

いつの頃からか「おっぱい山」と呼ばれ、親しまれている２つの山は、女性の胸を想像させるユーモラスな形をしています。「おっぱい山」は、「西の森と東の森」という民話として残っています。

◆　◆　◆　◆　◆

昔、ティダ(神様)が、アウダ(もっこ)にふたつの森を乗せて歩いていました。パスンツ(路地)にさしかかった時、ティダは石につまずいて転んでしまいました。その勢いで落としたふたつの森が「西の森」と「東の森」になり、アウク(天秤棒)は「南の嶺」となりました。そしてティダがひざをついてできたくぼ地からはとうとうと水が湧き出てきたので、ティダプイ°キャー(ティダが掘った井戸)というようになりました。

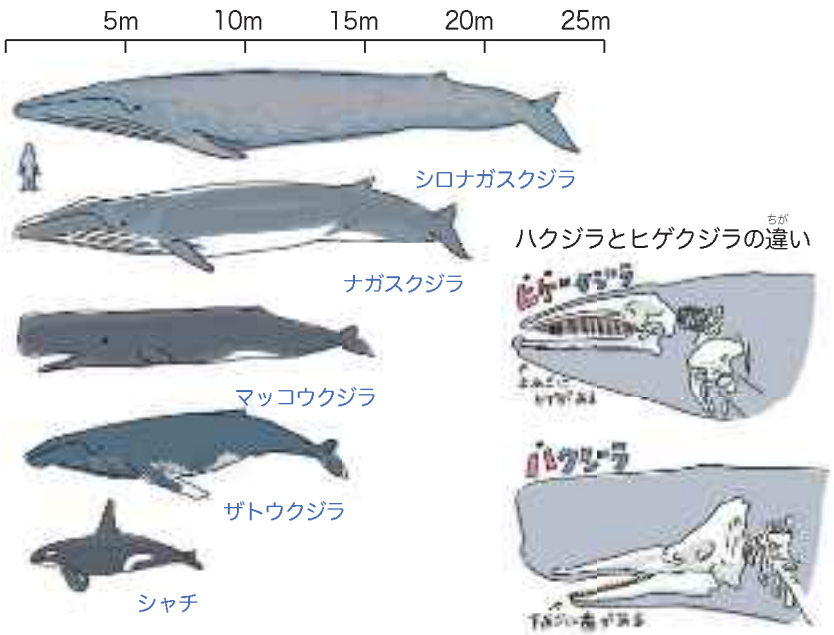
市指定 天然記念物(地質)　1978(昭和53)年1月25日指定

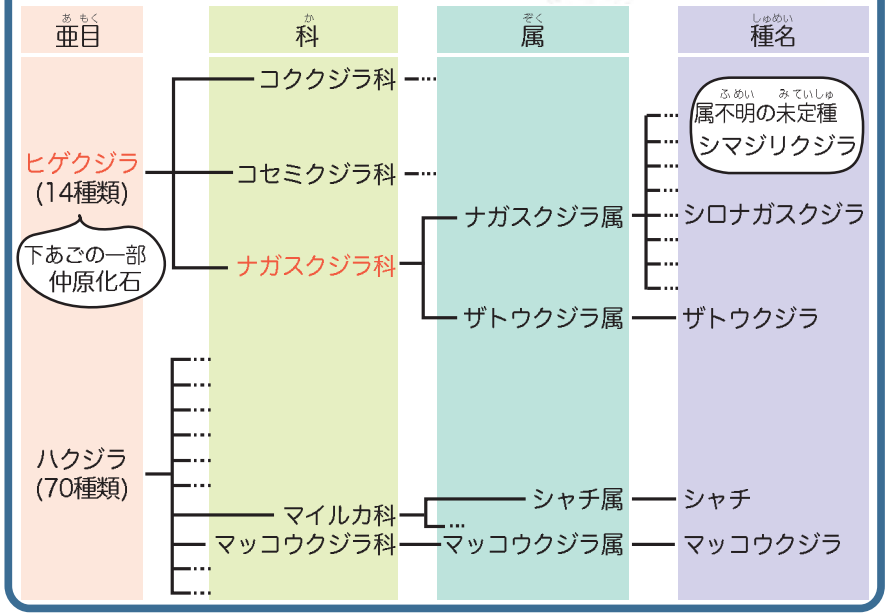
仲原化石

仲原化石はくじらの化石で、断崖約50m下の波打ち際にあり、岩につきささるような形で残っています。岩から露出している化石は、長さ60cm、幅30cm、厚み20cmほどで、全長10m以上もあるヒゲクジラ亜目の下あごの骨の一部であるとされています。城辺地区で確認されたクジラはこの１点で、詳細は解明されていません。宮古では他にシマジリクジラ化石が発見されています。

クジラまめちしき

よく名前を聞くクジラたちを簡単に比較してみました。





西里添・下里添 福里コース

散策コース

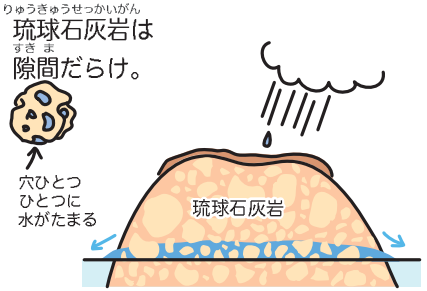
所用時間：1時間30分
(約18km)

「親道」

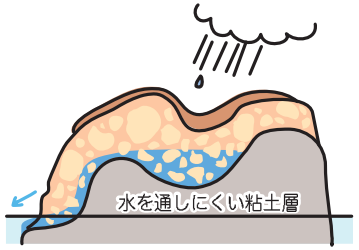
「正保の国絵図(1646)」に書かれている村番所を繋ぐ主要道路。道路の整備などで多くが消滅しているが、ところどころ残っている

宮古の地下水と地下ダム

宮古は水のない厳しい島だと思われていましたが、1972(昭和47)年の沖縄本土復帰後に行われた調査によって、地下に大量の水が蓄えられることがわかり、世界初の大型地下ダムをつくることで、生活や農業を安定して行うことができるようになりました。

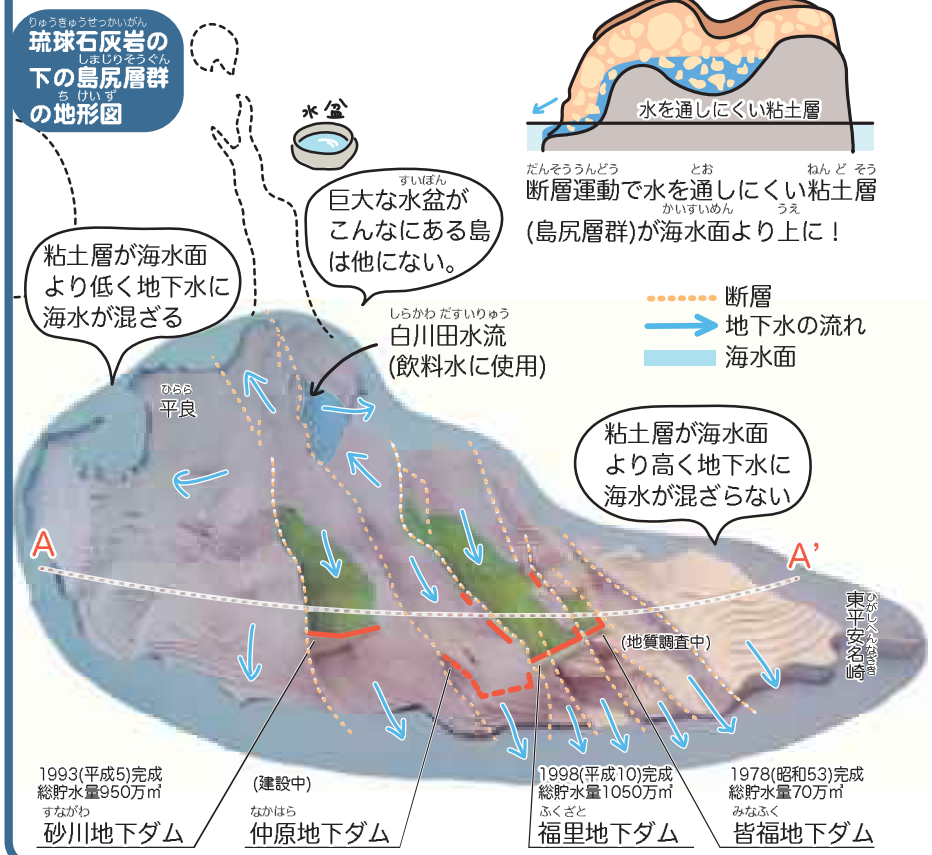


雨水はすべて海に流れ出していると思っていたら。

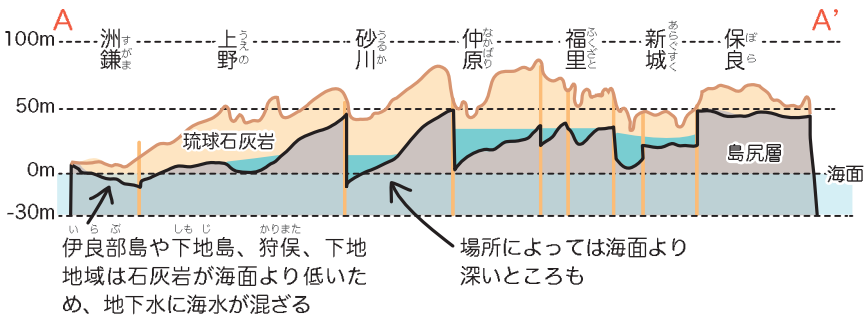


断層運動で水を通しにくい粘土層(島尻層群)が海水面より上に！

琉球石灰岩の下の島尻層群の地形図

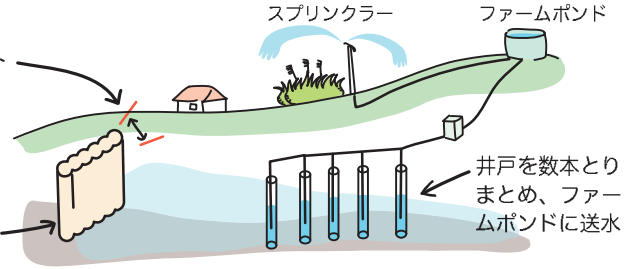


断面図



地下ダム

ダムを地表近くまでつくってしまうと、満水時に地上にあふれてしまうため、冠水しないような高さで設計されている



宮古島市地下ダム資料館

資料館では、地下水のメカニズムや、地下ダムの仕組みを、映像や模型などを使って分かりやすく解説しています。併設されている水位水質監視施設も歩いていける距離にあり、福里地下ダムの止水壁と、実際に堰き止められている地下水を見ることができます。

地下ダム資料館

水位水質監視施設

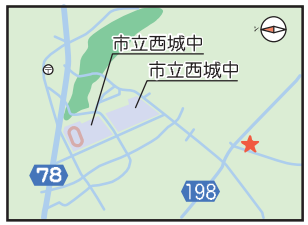
国登録 有形文化財(建造物)　2013(平成25)年6月21日指定

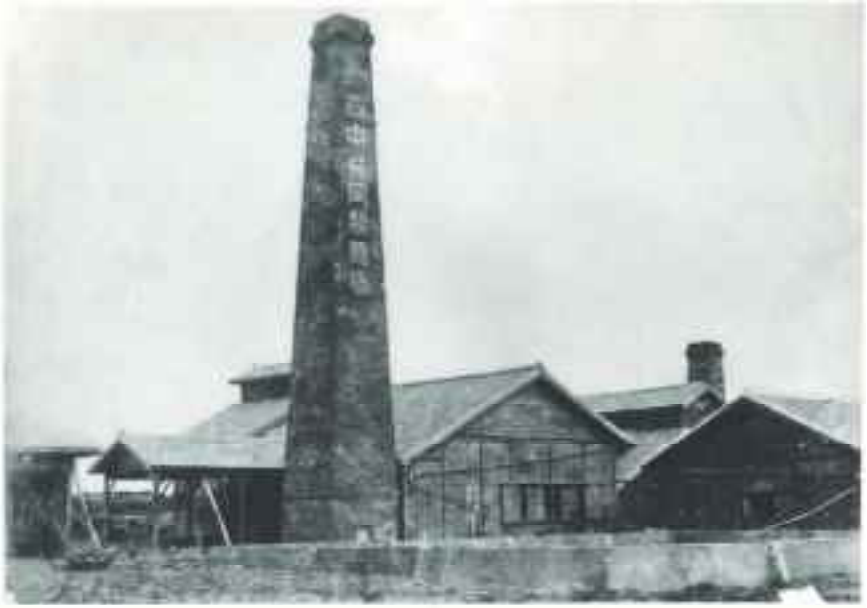
旧西中共同製糖場煙突

市指定 史跡　2017(平成29)年11月22日指定

旧西中共同製糖場跡

旧西中共同製糖場跡は1942(昭和17)年に創設された製糖工場です。農家で組合を結成してお金を出し合い、建築資材は組合員が漲水港(現在の平良港)から運び入れるなど、並々ならぬ力を注いだといわれています。製糖場は２、３回操業しただけで、戦争で旧日本軍の強制接収にあい、操業中止に追い込まれました。現在はその煙突と冷却水施設の跡が残っているだけです。





戦時中の西中共同製糖場

1881(明治14)
はじめてサトウキビが栽培される

1883(明治16)
黒糖が生産される

1884(明治17)
製糖技師 城間正安が宮古へ

1894(明治27)
沖縄県訓令で栽培が奨励

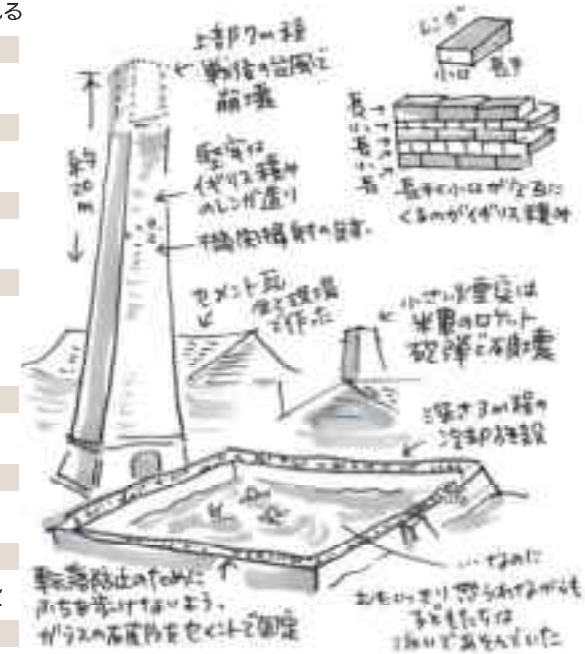
1929(昭和4)
長中・皆福・花切に
小型製糖工場建設

1931(昭和6)
台風で３工場とも全壊

1932(昭和7)
再び台風で全壊、廃業

1942(昭和17)
砂川と西中に中型製糖工場建設

1944(昭和19)
日本軍に強制撤収 創業停止



黒糖ができるまで

製糖工場で生産するようになるまでは、各集落で黒糖を作っていました。

今は全て機械化されていますが、黒糖の作り方は基本的に同じです。

市指定 無形民俗　1990(平成２年)11月14日指定

上区の獅子舞い

1892(明治25)年、人口の増加に伴い下里村から５つの集落が分かれ、下里添村となりました。その際、下里村の長が村分けの祝いとして２頭の獅子を贈ったといわれています。

上区の獅子舞いは、十五夜に行われる豊年祈願祭で奉納されるなど、集落の人々から大切にされている伝統行事です。また、魔除け、厄除け、区民の協和、豊作の守護神としても信仰されています。

唐金兄

上区の獅子舞で踊るクイチャーの中に「唐金兄」という歌があります。歌詞の中に「嶺沼」という地名が織り込まれており、古くからの集落独自の歌であることを示しています。嶺沼は水場として利用されていた沼地でしたが、耕地整備などの影響を受け、いまは残っていません。

唐金兄(抜粋)

1.唐金兄が 最初ぬ
出逢まずさやヨー(ヤイヤヌ)
ヨーイマーユヌ
出逢まずさヨー(ニノヨイサッサイ)
2.嶺沼ぬ ヤラブが下んどぅ
出逢まずさやヨー
ヨーイマーユヌ
出逢まずさヨー(ニノヨイサッサイ)

※この頃は厳しい人頭税の時代。上布を織り上げられなかったら、生活に関わる大変な問題だった

唐金はいい男という意味もある

昔、唐金兄という男がおりました。彼の住む集落の北方の嶺に、まっすぐにのびた１本の立派なヤラブ(テリハボク)が生える「嶺沼」という沼がありました。

ある日、唐金兄はそのヤラブの下で女性と出逢い、夫婦になりました。

ふたりは出逢った思い出の木を家の棟柱にし、残りで地機(機織り機)をつくりました。

ある日、妻が布を織っていると、ふと愛しい唐金兄のことが頭に浮かび、織り間違えてしまいました。失敗してしまったと悲しんでいる妻に、「なげくな、あわてるな」と唐金兄は励ます。

気を取り直した妻は、なんとか布を織り上げることができました。

城辺と人頭税

旧城辺庁舎の敷地内に、人頭税廃止の顕彰碑が建っています。また、城辺地域内には人頭税に深く関わった平良真牛、上原戸那、西里蒲の３名の碑が建つなど、人頭税廃止運動と城辺地域は深い関係にあります。

旧城辺庁舎内の顕彰碑　保良村総代 平良真牛生誕地の碑

新城村総代 上原戸那生誕地の碑　福里村総代 西里蒲生誕地の碑

※総代＝村長

人頭税年表

- 1609(慶長14)　薩摩侵攻。琉球王朝、薩摩の支配下に
- 1637(寛永14)　宮古・八重山に人頭税制をしく
- 1659(万治２)　年貢の総額を毎年一定額にする

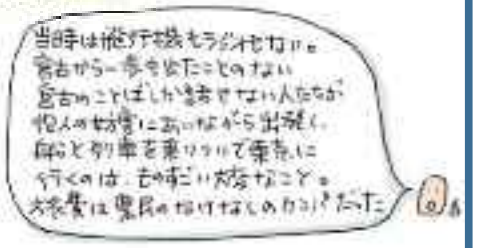
しかも…

- 1879(明治12)　廃藩置県。琉球は沖縄県に　沖縄県になって薩摩の支配は終わったのに、人頭税は続く
- 1884(明治17)　城間正安、製糖技師として那覇から宮古へ赴任

次第に廃止運動が強まっていく

- 1892(明治25)　中村十作、真珠養殖事業で宮古へ
- 1893(明治26)　人頭税廃止請願のため、代表４人が上京

- 1895(明治28)　請願書が国会で可決
- 1903(明治36)　人頭税廃止　266年！
- 1964(昭和39)　顕彰碑建立



新潟に宮古島！？

中村十作の生地、新潟県上越市板倉区稲増には、十作の業績を称えた記念館が建てられ、十作や人頭税廃止運動に関する資料などが展示されています。また、集落内には宮古島をかたどった記念公園が整備され、島田橋の親柱は宮古の石灰岩が使われています。このことをきっかけに1980年頃から宮古島と上越市の交流が始まり、現在もお互いに訪問交流を行っています。

東平安名埼灯台下の案内板には板倉町が載っている

中村十作記念館　宮古の琉球石灰岩を使った親柱　宮古島をかたどった記念公園

市指定 天然記念物(植物)　1991(平成３)年11月12日指定

前井と御神木その周辺の植物群落

前井は下里添西部と長間南部の住民が利用した洞窟泉で、汲み取りが大変で不衛生なため、竪穴式の井戸に改築されています。当時は道を挟んだ北側にウツバラ井がありました。湧き出る水量が少なく、汲み取るのに時間がかかり、ブー(苧麻)を績んで順番を待ったことから「ブーンムガー」とも呼ばれています。周辺はデイゴをはじめ亜熱帯特有の植物群落があります。

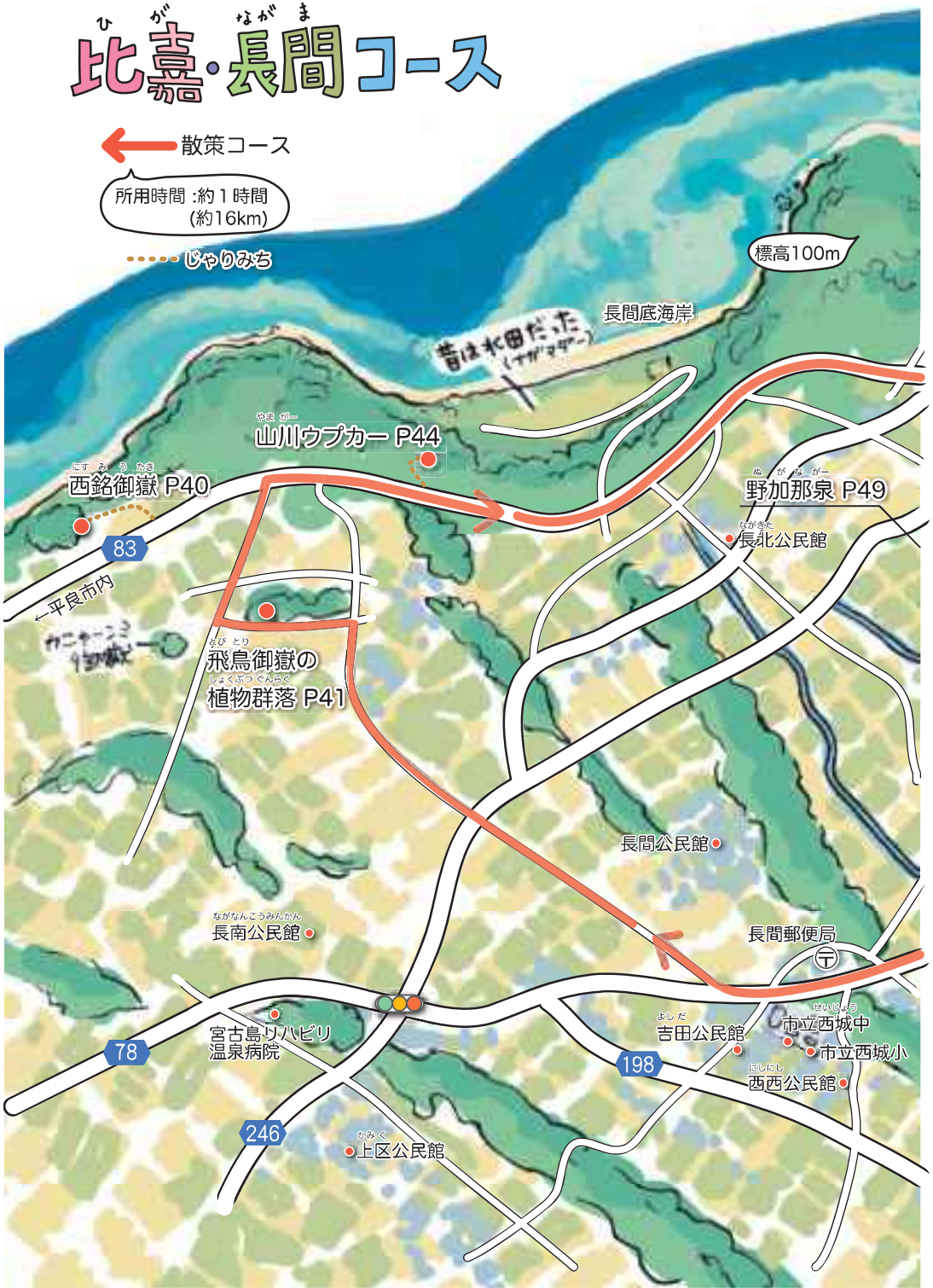
城辺を一望できるいこいの森展望台

比嘉・長間コース

散策コース

所用時間 :約１時間
(約16km)

じゃりみち



市指定 史跡　1977(昭和52)年3月16日指定

西銘御嶽

西銘御嶽は、西銘の嘉播親が居を構えた西銘城の跡地といわれています。北側は断崖に面し、周辺は水田が広がっていました。全体の規模ははっきりしていませんが、城壁らしき石垣もみられ、青磁片などが広範囲に見つかっており、井戸もふたつ残っています。嘉播親は、炭焼太郎ともいわれ、後に長女が宮古を統一する目黒盛を生み、次女の娘於母婦が飛鳥爺と結ばれています。

市指定 天然記念物(植物)　1977(昭和52)年3月16日指定

飛鳥御嶽の植物群落

西銘城主だった飛鳥爺が祀られる飛鳥御嶽の植物群落は、御嶽林として古くから手付かずで残された原生林です。シマヤマヒハツ、ナガミボチョウジ、ヤブニッケイ、タブノキ、オオバギ、ハマイヌビワなどがよく見られ、特にモクタチバナが多いのが特徴です。さらに野鳥の営巣地や周辺畑地の防風林、そして地域住民の信仰対象として、古くから地域の人々に大切にされています。

飛鳥爺の物語

昔、箕の隅という村に、真徳金という男がいました。「その勇猛なさまは虎のようで、その早さは飛ぶ鳥のよう」と言われるほど、武勇に優れ、足が早く、弓の名人でした。

その頃、西銘城主の西銘按司に、於母婦という美しいひとり娘がいました。跡継ぎがおらず良い婿はいないかと思っていたときに真徳金のうわさを聞きつけ、於母婦の婿にどうにかして迎えたいと考えました。

そんなおり、村の神女が「一斗の餅をくれたら真徳金を呼び寄せてみせる」と言うので、任せてみることにしました。すると、老夫婦は箕の隅村の子どもたちに餅を配り、これは神様からのお告げだと言って、「西銘按司の娘、於母婦は月に照り栄え、花の匂いのする可愛い娘だ。飛鳥真徳金とは天が決めた夫婦で、この夫婦は天を照らし、島を覆うほどに栄えるぞ」という歌を歌わせ、流行らせていきました。

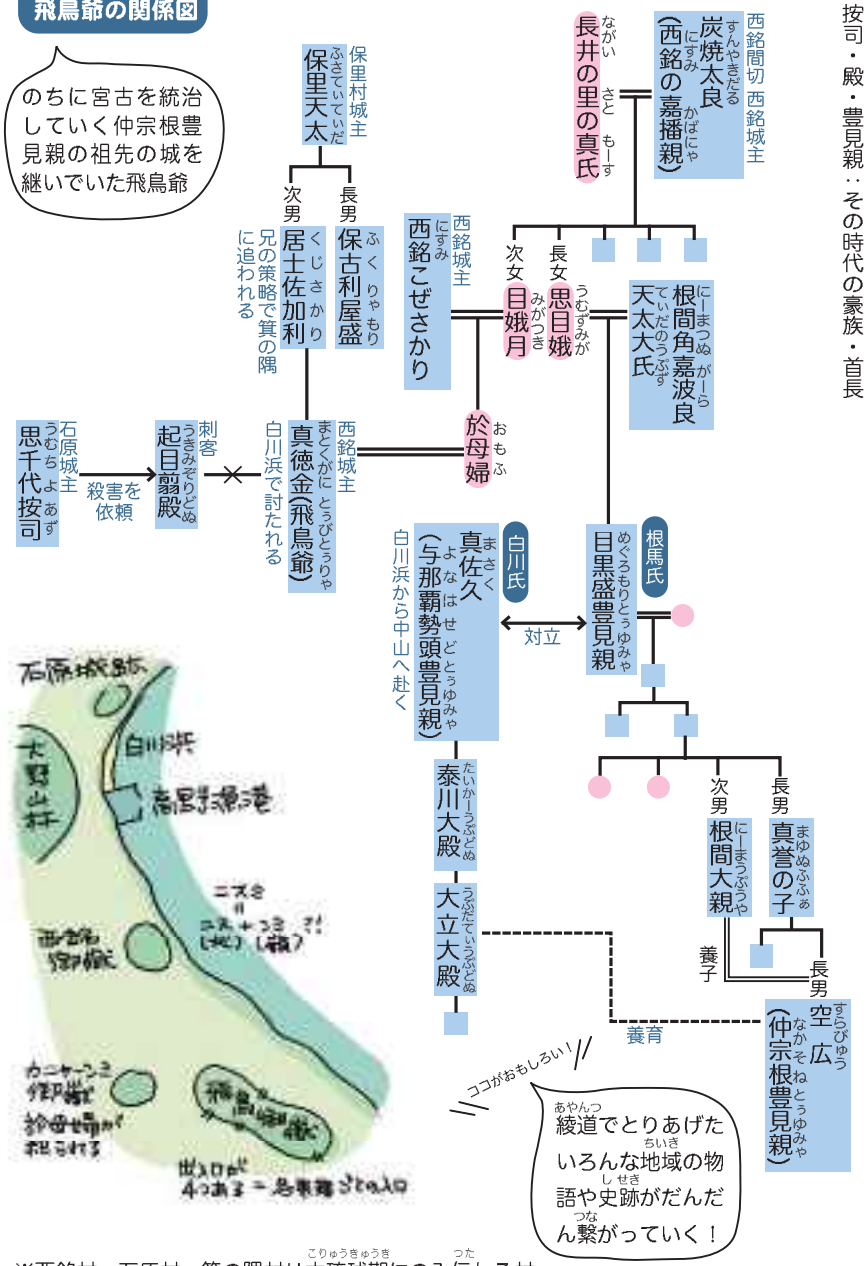
その歌を聞いた真徳金は、神様のお告げならばと西銘村を訪ね、噂通りの良い男に満足した按司は、娘と結婚させました。按司の死後、西銘城主となった真徳金は、人々から飛鳥爺と親しまれ、次第に領地を拡大し、飛鳥城も築きます。

その威勢に不安を抱いた西銘村の西にある石原城でした。城主の思千代按司は、飛鳥爺が度々領域を侵していたので、なんとかして討ちたいと思い、弓使いと名高い起目翦殿を刺客に雇いました。

そしてついに、飛鳥爺は白川浜で起目翦殿に弓の勝負を挑まれ、策に負けて両目と胸を射抜かれて殺されてしまいました。

飛鳥爺の死後、西銘村の集落は衰退してしまいます。その後、この地を往来する人々が次々と病にかかって死んだので、飛鳥爺のたたりではないかという噂が広がり、城跡にコーパナ(香と米)を捧げ、飛鳥爺の亡魂を慰めるようになりました。

飛鳥爺の関係図



※西銘村、石原村、箕の隅村は古琉球期にのみ伝わる村。

市指定 有形民俗　2002(平成14)年5月14日指定

山川ウプカー

山川ウプカーは、山川集落から北へ500m程のところにある湧泉です。「雍正旧記」(1727年)に「山川但洞川。掘年数不相知」と記されており、古くから知られていますが、いつ頃造られたのかは分かっていません。

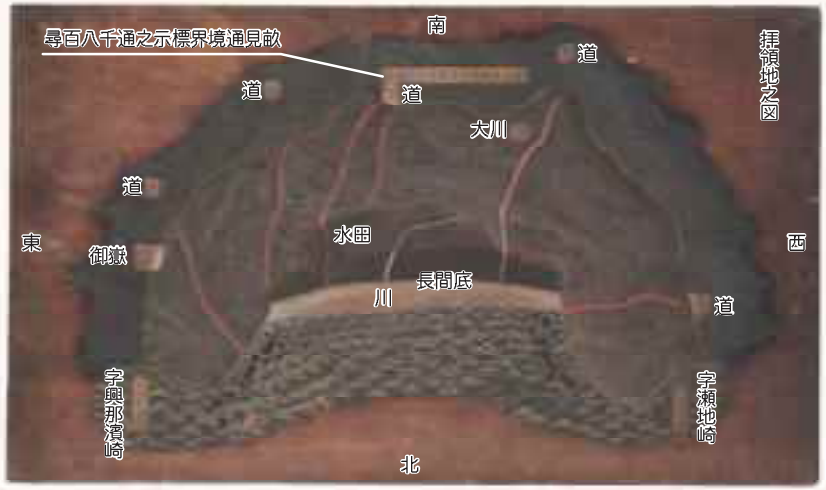
山川ウプカーは水量が豊富で、水田の水としても利用され、大切にされてきました。

宮古有数の水田 ナガマダー

ウプカーの豊富な水は崖下に肥沃な土地を形成し、通称長間田と呼ばれる水田が広がっていました。宮古の中でも有数の米の産地で、琉球王府の尚真王が仲宗根豊見親に与えた土地でも知られています。

1975(昭和50)年頃、サトウキビ栽培が盛んになったことやリゾート開発の影響で、長間田の水田も姿を消してしまいました。

仲宗根豊見親が尚真王より与えられた土地を記した木刻



木刻拝領地之図：宮古島市総合博物館展示品より

1960年頃のナガマダーの水田の様子

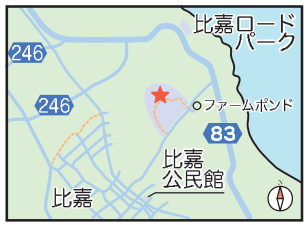
Military Geology of the Miyako Archipelago, Ryukyu-Retto 1960
宮古島キッズネット

県指定 史跡　1991(平成３)年８月２日指定

高腰城跡

高腰城跡は、比嘉集落の北にある高さ113mの丘陵の頂上部分につくられた13～14世紀頃の城跡です。

「雍正旧記(1727)」には、この城の城主が高腰按司であったことや、城の大きさなどが明記されています。発掘調査によって13～15世紀の土器や陶磁器、古銭、鉄製品などが確認されています。現在は、石積みの一部が残るのみです。



高腰の按司

むかし、高腰按司は、城の南にある城はら中喜屋泊村の内立按司、城の東にある新腰村の新腰按司と同盟関係にあり、ともに協力しあってこの地域一帯をおさめていました。

ところが、当時、東川根に拠点をもち、宮古島全土に勢力を拡大していた与那覇原軍が、内立按司をそそのかし、城を奪う計画を立てます。

内立按司が高腰按司を一年の収穫を感謝する祝宴と称して自分の城に招き、その祝宴の最中に与那覇原軍が按司のいない高腰城を攻めました。

城からの早馬で事の次第を知った高腰按司は急いで戻りますが、時すでに遅く、城は焼け落ちた後でした。それを目の当たりにした按司は、高腰御嶽で自害したと伝えられています。

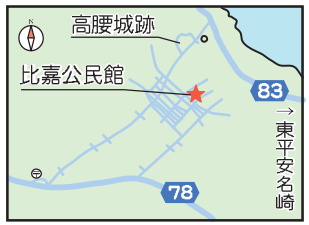
参考：『宮古史伝』慶世村恒任著

□県指定史跡範囲　□高腰城跡 遺跡範囲

市指定 無形民俗　2005(平成17)年９月27日指定

比嘉の獅子舞い

比嘉集落では、旧暦の１月20日に二十日正月という祭事がとり行われ、その中で地域の安全や五穀豊穣、繁栄を祈願して獅子舞いが奉納されます。1908(明治41)年、集落所有の土地を巡って士族と平民が争い、裁判沙汰にまで発展します。比嘉の将来を憂慮した双方が歩み寄って和解し、1912(大正２)年の旧暦１月20日に盛大に祝ったことが始まりだといわれています。



市指定 有形民俗　1991(平成３)年１月８日指定

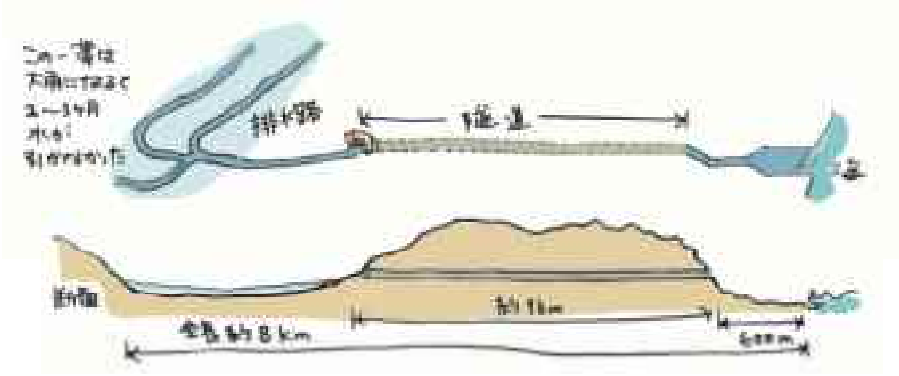
野加那泉

野加那泉は比嘉集落の西側にある湧泉です。井戸は二段構えで、北側は飲料水、南側は牛や馬を洗う場所として利用され、使用後の水は水田の用水にも使用されていました。この一帯にはイス°原里という集落があったとされますが、詳しくはわかっていません。昔は、夕方になると若者たちが泉に集まり、水汲みに来た女性に声をかけたり、日々のことを話すのが何よりの楽しみでした。

市指定 建造物　2002年(平成14)年5月14日指定

瑞福隧道

排水路が広がる比嘉下の島、池原底、福地原、加治道一帯は大雨のたびに水が溜まり、農作物に大きな被害を与えていました。1933(昭和８)年、当時の瑞慶覧朝牛村長は地主400名余りを集めて大規模な排水工事にとりかかります。４年後、全長約８kmの排水路が完成。丘陵をつらぬく約１kmのトンネルは、瑞慶覧村長の功績を讃え、瑞の一文字をとって「瑞福隧道」と名付けられました。



排水路の改修と新トンネル

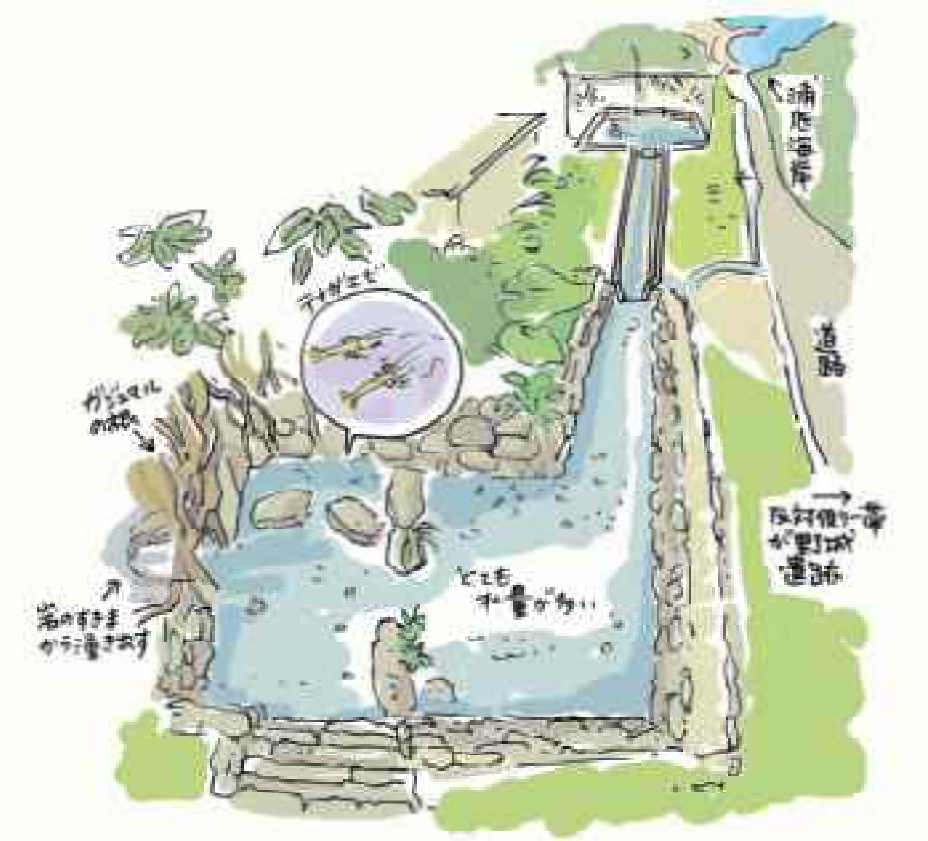
瑞福隧道の完成から40年余りの歳月が経ち、隧道の老朽化が進んだため、県は排水路の改修と、トンネル新設工事に取りかかります。現在行っている耕地などの整備で、排水量が増えることが予測されたため、瑞福隧道は改修せず、その東側に新しいトンネルを掘る大工事となりました。1984(昭和59)年に着工し、2000(平成12)年に、排水路と新トンネルが完成しました。

直径５mの、ダンプ１台がゆうに通れる大きさの新トンネルが瑞福隧道と並行して走る

市指定 史跡　1991(平成３)年４月９日指定

野城泉

野城泉は、浦底漁港に降りていく途中の標高60mほどのところに湧き出す自然湧水です。対面の丘陵に位置する野城遺跡に関わりがあるとされる野城按司の集団が、飲み水として利用していたと考えられています。水量が豊富で、現在でも付近の農業用水として利用されています。また、1995年にシマチスジノリの変種「ミヤコチスジノリ」が確認されています。



ミヤコチスジノリ

1995年に野城泉で確認された藻類は、調査の結果、国内で初めて確認されたシマチスジノリの変種であることがわかり、「ミヤコチスジノリ」と呼ばれています。

シマチスジノリは分布が非常に限定された希少種で、湧水井戸という特殊な環境で育ちます。

ミヤコチスジノリは、野城泉にのみ生息していますが、近年は環境の変化に伴い、減少しています。

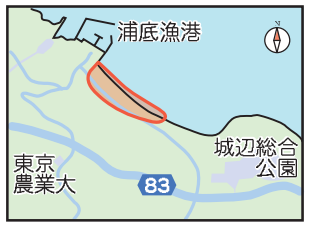
ミヤコチスジノリ（撮影：藤田喜久）

浦底遺跡

出土した 200 本以上の貝斧

浦底遺跡は今から約2500～1800年前の無土器期の遺跡で、浦底漁港の南東側に位置する砂丘に形成されています。

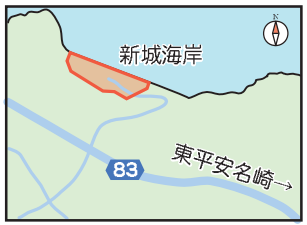
200本以上にのぼる世界最多のシャコ貝製の貝斧が出土し、他にも様々な貝や骨製品が出土しています。また、集石遺構(石が集められた跡)が160基以上確認されており、焼き石を使った調理法(アースオーブン)で料理をした跡だと考えられています。



アラフ遺跡

アラフ遺跡は今から約2,800年前の無土器期最古の遺跡で新城海岸の砂丘に形成されています。他の無土器期の遺跡と同じように、集石遺構や貝斧など多様な道具が出土しています。

特に注目するのは、４本の貝斧と１本の枝サンゴがまとまって発見されたことで、何らかの祭祀儀礼に使われたと考えられています。これは世界的に例をみない発見となりました。



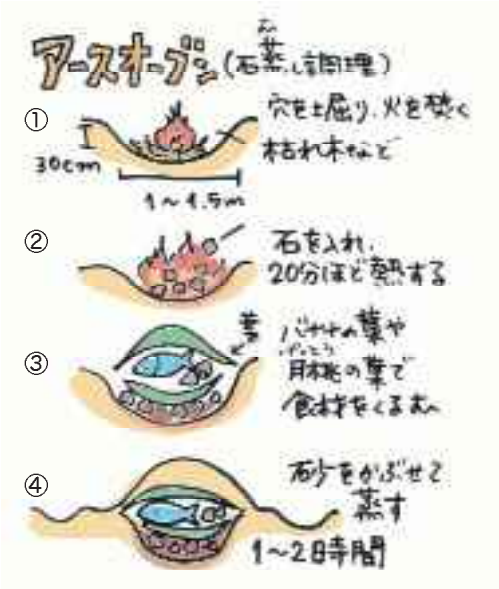
浦底遺跡やアラフ遺跡から出土した遺物

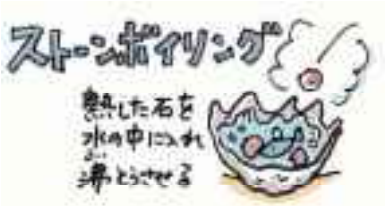
石で調理をしていた跡

浦底遺跡やアラフ遺跡からは、火を受けて黒く変色した石灰岩やサンゴ石灰石がまとまった状態で発見され、集石遺構といわれています。

これらの用途はアースオーブンやストーンボイリングといった、焼いた石を用いた調理跡だったと考えられています。

集められて焼かれた石の遺構がまとまって検出された(浦底遺跡)





貝斧(シャコガイの斧)

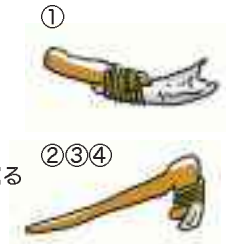
貝斧は無土器期を代表する道具で、大量に製作されています。貝の形を上手に利用して斧などに使用しています。

儀式に使われた！？

アラフ遺跡で発見された「貝斧埋納遺構」は、４つの用途の違う貝斧と１本の枝サンゴがひとつにまとめてあり、丸木舟をつくった後、大工道具の供養のために埋められたと考えられています。このような形での出土は他に例を見ません。

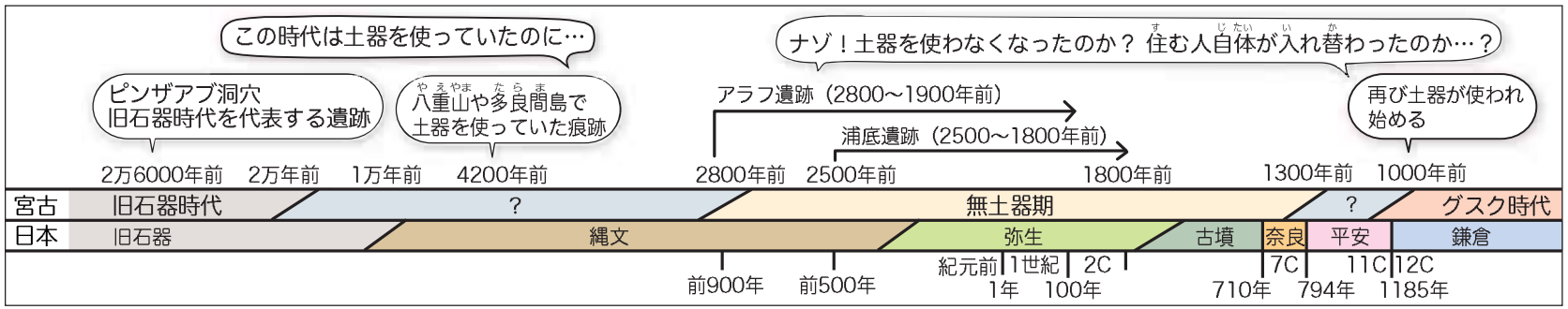
丁寧に並べられた４つの貝斧と枝サンゴ(アラフ遺跡)

①丸ノミ型	(肋部分)	平面を掘る
②手斧型	(蝶番部分)	平面を掘る
③丸手斧型	(肋部分)	湾曲面を掘る
④手斧型	(蝶番部分)	平面を掘る



無土器期って？

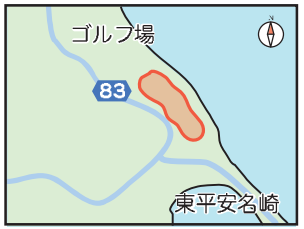
土器が出土しない時代。土器を使わない代わりに貝や骨を道具として使っている。



市指定 史跡　1994(平成６)年4月12日指定

保良元島遺跡

保良元島遺跡は、標高50～60mの台地に形成された14～15世紀頃の集落遺跡です。遺跡範囲は広く、元島御嶽やブンミャー跡、竜の家と呼ばれる洞窟があります。中国の記録史「温州府史」によれば、1317年に中国の永嘉県に小船が漂着し、「我々は婆羅公に仕える密牙古人で、交易のために撤里即地面*に往く途中で嵐にあった」と語ったとされています。婆羅は保良、密牙古は宮古と考えられ、保良の人々が南方と交易し、この元島が海外貿易の拠点だった可能性も残されています。



＊シンガポール方面といわれている

保良元島の竜

むかし、保良の村人はとても豊かな暮らしをしていました。

ところが、ある日から鶏や山羊、馬、牛がいなくなるというようなことが毎日のように続きました。この奇妙なできごとに、村人たちは「このままでは村はどうなってしまうのか」と心配し、総出で村中を探しまわりました。

すると、村人のひとりが村の近くにとても深い新しい洞窟があるのを見つけました。その洞窟を何気なく覗いてみると、蛇のような巨大な生き物が鼻をコロコロと鳴らして寝ていました。あまりのことに驚いてひっくり返り、気絶してしまいました。慌てふためいた村人たちは、気絶した人を担いで逃げ帰りました。

それからというもの、村人たちは、子(北)・丑(南)・寅(東)・真中の４つの里に分かれ、順番に洞窟の生き物を見張りました。

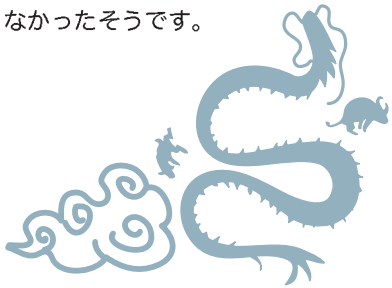
ある日、その生き物が天に勢いよくササーと登っていったかと思うと、雲の間からドドー！という雷だか声だかわからない音とともに降りて来るのを目撃します。

もしかして…とさらに見張っていると、大嵐になり竜巻が起きたかと思ったとたん、その生き物と一緒に村の牛もいなくなっていました。

これを見た村人は、「やっぱりこいつが盗んでいたんだ！」と怒り、次の日の夜、生き物が寝ているのを見はからい、洞窟に火を放って焼き殺してしまいました。

焼き殺した生き物をよく見ると、それは竜の子でした。するとドドーという音とともに天から親竜が降りてきて、我が子が死んでいるのを見て悲しみます。

村人はこの竜の親が元々の原因と考え、なんとかして退治しようと頑張りますが、殺すことはできなかったそうです。



周辺の遺跡群

宮古諸島では1981～82(昭和56～57)年にかけて沖縄県教育委員会による遺跡分布調査を実施し、表面踏査による調べで85か所もの遺跡が確認されています。また、近年の土地開発に伴い、新規の遺跡も数多く発見されています。主に海岸の砂丘地に立地する、無土器期といわれる土器を使わない時代の遺跡や、丘陵部に立地する13～15世紀頃の石積みを伴う遺跡などが分布しています。

また、数多くの戦争遺跡も分布しています。

遺跡・城跡・遺物散布地

戦争遺跡

①ウズラ嶺の陣地壕群
②西更竹司令部壕
③西花切の壕群
④旧西中共同製糖場煙突の弾痕
⑤アーリヤマの戦争遺跡群
⑥東保茶根の戦争遺跡群
⑦与那浜崎の砲台
⑧ツヅピカ御嶽の壕
⑨池原・久路布の壕群
⑩ミルク嶺の地下壕群
⑪西川底の壕群
⑫ツガマキ御嶽の壕
⑬南野加那の壕
⑭吉野海岸の壕
⑮東平安名崎の銃眼

※遺跡内の遺物を持ち帰ることは法律で禁じられています。

リュウキュウキンバト 1972(昭和47)年5月15日指定

リュウキュウキンバトは、キンバト属の沖縄特産の亜種で、宮古島・西表島・石垣島・与那国島などに生息する熱帯系の美しい小バトです。近年生息域である原生林の伐採などよって減少傾向にあります。

写真提供：仲地 邦博

カラスバト 1971(昭和46)年5月19日指定

カラスバトは、沖縄北部・慶良間・宮古・八重山諸島の常緑広葉樹林に生息します。国内のハトでは最大で、宮古、八重山のものはヨナクニカラスバトとして別亜種になっています。目撃は極めて希です。

イイジマムシクイ

1975(昭和50)年6月26日指定

イイジマムシクイは日本固有の渡り鳥で、ウグイスと大きさも形もほぼ似ています。山林や低地の雑木林、竹やぶなどにすみ、旅鳥として沖縄本島・宮古島・与那国島などに渡来した記録があります。

オカヤドカリ

1971(昭和46)年5月19日指定

沖縄県には６種類のオカヤドカリ属が分布しています。主に海岸や海岸林の近くに生息し、産卵のために陸にあがった後は陸上で生活します。

キシノウエトカゲ 1971(昭和46)年5月19日指定

キシノウエトカゲは宮古・八重山諸島に分布する固有種です。体長約40cmに達する日本固有のトカゲの中では最大です。

1960～70年代にネズミ駆除にイタチが導入されたため、激減しています。

文化財の体系図

文化財の種類

特に価値の高いもの

特に重要なもの

重要なもの

特に必要のあるもの

保存と活用が特に必要なもの

保存できるよう考える必要のあるもの

文化財

- **有形文化財**
  - 指定 → **重要文化財** → 指定 → **国宝**（世界から見ても価値が高い、国の宝）
  - 登録 → **登録有形文化財**

  建造物
  美術工芸品　工芸品、絵画、彫刻、書跡、典籍、古文書、考古資料、歴史資料など、形のあるもの

- **無形文化財**
  - 指定 → **重要無形文化財**
  - 選択 → **記録や作成などを考える必要のある無形文化財**

  演劇、音楽、工芸技術などの、形のない、人間の「わざ」そのもの

- **民俗文化財**
  - 指定 → **重要有形民俗文化財**
  - 指定 → **重要無形民俗文化財**
  - 登録 → **登録有形民俗文化財**
  - 選択 → **記録や作成などを考える必要のある無形民俗文化財**

  有形民俗文化財　無形民俗文化財に使われる衣装、器具、家屋など
  無形民俗文化財　衣食住、生業、信仰、年中行事などに関する風俗習慣、民俗芸能、民俗技術

- **記念物**
  - 指定 → **史跡** → 指定 → **特別史跡**
  - 指定 → **名勝** → 指定 → **特別名勝**
  - 指定 → **天然記念物** → 指定 → **特別天然記念物**
  - 登録 → **登録記念物**

  遺跡　貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅など
  名勝地　庭園、橋梁、渓谷、海浜、山岳など
  動物
  植物
  地質鉱物

- **文化的景観**
  - 都道府県または市町村の申し出に基づいて選定 → **重要文化的景観**

  地域の人々の生活または生業及び地域の風土によって形成された景観地　棚田、里山、用水路など

- **伝統的建造物群**
  - 市町村が決定 → **伝統的建造物群保存地区** → 選定 → **重要伝統的建造物群保存地区**

  宿場町、城下町、農漁村など

- **文化財の保存技術**
  - 選定 → **選定保存技術**

  文化財ではないが、保護の対象となっているもの。文化財の保存に必要な材料や用具の生産制作、修理・修復の技術など

- **埋蔵文化財**

  土地に埋まっている文化財

それぞれの文化財の一例

※宮古島市や、沖縄県、九州にある文化財の一例

有形文化財

形のあるもの

- 指定 → **重要文化財**
  - 豊見親墓３基（どうゆみゃばかさき）
- 指定 → **国宝**
  - 治金丸 / 沖縄県（じがねまる / おきなわけん）
- 登録 → **登録有形文化財**
  - 旧西中共同製糖場煙突（きゅうにしなかきょうどうせいとうじょうえんとつ）

無形文化財

形のないもの

- 指定 → **重要無形文化財**
  - 宮古上布（みやこじょうふ）

民俗文化財

生活に関係したもの

- 指定 → **重要有形民俗文化財**
  - ウイピャームトゥの祭場（さいじょう）
- 指定 → **重要無形民俗文化財**
  - 宮古島のパーントゥ
- 登録 → **登録有形民俗文化財**
  - 竹富島の生活用具 842 点 / 沖縄県 竹富島（たけとみじまのせいかつようぐ / たけとみじま）

記念物

- 指定
  - **史跡**（歴史上の名所）
    - 遠見番所（とおみばんしょ）
  - **特別史跡**
    - 吉野ヶ里遺跡 / 佐賀県（よしのがりいせき / さがけん）
  - **名勝**
    - 東平安名崎（ひがしへんなざき）
  - **特別名勝**（景色のよいところ）
    - 識名園 / 沖縄県（しきなえん）
  - **天然記念物**
    - オカヤドカリ
  - **特別天然記念物**（貴重な自然を記念するもの）
    - イリオモテヤマネコ
- 登録 → **登録記念物**
  - 旧仲宗根氏庭園（きゅうなかそねし ていえん）

文化的景観

人間と自然が作ってきた景色

- 指定 → **重要文化的景観**
  - 別府の湯けむり・温泉地 / 大分県（べっぷのゆけむり / おおいたけん）

伝統的建造物群

歴史的なまちなみや景色

- 指定 → **伝統的建造物群保存地区**
  - 竹富島の農村集落 / 沖縄県 竹富島（たけとみじまのうそんしゅうらく）

選定保存技術

文化財の保存に大事な技術

- 苧麻糸手績み（ちょまいとてうみ）

埋蔵文化財

埋まっているもの

- 住屋遺跡（すみやいせき）

私たちの文化財です
大切にしましょう

文化財を許可なく無断で現状変更することは法律で禁止されています。

教育委員会
公認アプリ

このアプリケーションは、GPS機能を利用したコース案内が可能なほか、現地で文化財の説明などを閲覧することができます(ダウンロードをしておけば、ネット環境が不十分な場所でも文化財の閲覧が可能です)。

ポータルサイト

宮古島市neo歴史文化ロード　**綾道(城辺東・北コース)**

発行　平成31年３月
編集・発行　宮古島市教育委員会
〒906-0103沖縄県宮古島市城辺字福里600番地１
TEL 0980-77-4947　FAX 0980-77-4957
イラスト・デザイン　山田　光
平成30年度宮古島市neo歴史文化ロード整備事業